

# 同和問題を重要な柱とした

# 人権教育・啓発の推進

問 市教育委員会生涯学習人権課  
市役所人権推進課  
☎0888・6866・8803  
☎0888・6841・1488

**Q1** 私たちの生活習慣や社会のしきたりについて深く考え、見直しをしていくことが、どうして同和問題の解決につながっていくのですか。

**A** 私たちの生活の中で、古くから言い伝えられているものには、素晴らしい生活の知恵や社会的ルールなど、今後も伝えていくべきものがたくさんあります。その一方で、「昔から言われているから」、「みんながしているから」、と何の疑問も持たずに信じ込んでいるものもあります。そのように何も疑わないで信じていることの中には、人を束縛したり、差別につながる感情や意識が潜んでいたりするものもあります。何の根拠や理由もないことを盲信したり、他の人々に押しつけたりせず、私たち一人ひとりが「本当にそうな

のだろうか」と考えて見直していくことが、同和問題の早期解決へとつながるのです。

**Q2** 具体的には、どのようなことを見直していけばよいのですか。

**A** 例えば、「結婚式は、大安の日を選ぶ」、「お祝い事は、仏滅の日をさける」ということが、日常生活の中でよく言われています。この中に出てくる「大安」、「仏滅」という言葉は、「先勝」、「先負」、「友引」、「赤口」と合わせて「六曜」と呼ばれ、当たり前のことのように生活に溶け込んでいます。

しかし、この「六曜」は、中国が由来の暦の一種で、科学的根拠のないものであるばかりか、一週間が「七曜」の現在の社会にもそぐわないものです。最近で

は、この「六曜」を人権の視点から見直そうということも行われています。

**Q3** 『六曜』以外には、どのようなことを見直していけばよいのですか。

**A** 例えば、「北枕で寝ると縁起が悪い」、「葬式を見たら親指を隠せ」と言われることがあります。これらは、迷信や俗信とも呼ばれ、「六曜」と同じく、何の根拠や理由もないことを周りの状況や雰囲気から感わされて、科学的説明をしないまま人々が信じているものです。こうした迷信や俗信の中には、人を差別することにつながるものもあります。根拠のない考え方が社会の意識として広がると、偏見を持つ人がたくさん出てきます。また、根拠のない不合理なことに

広報なると11月号では、昨年12月に施行された「部落差別の解消の推進に関する法律」を踏まえ、これまでの同和教育の成果にも触れながら、人権教育・啓発を推進するに当たっては、同和問題を柱として、その解決をより強く目指していくことが大切であることをお伝えしました。今月号では、同和問題をはじめとするさまざまな差別や偏見につながるりかねない、私たち一人ひとりの生活習慣や社会のしきたりについて、深く考え、見直していく機会にしてほしいという願いのもと、Q&A方式でお伝えします。

振り回される態度は、差別を温存・助長してしまうことにつながるので、見直しが必要です。

## 私たちの生活習慣や社会のしきたりを見直そう

「人権尊重のまち鳴門」の実現は、いまだ根強く、厳しく残っている同和問題の完全解決なくしてあり得ません。その実現のためには、私たち市民一人ひとりが「部落差別を絶対に許さない」という強い気持ちを持つことはもちろん、物事をもっと科学的に考え、不合理なもの、不当なものが生活習慣や社会のしきたりの中にあることを、主体的に見つめ直し、改善していく必要があります。ともに努力をしていきましょう。

## '17 ヒューマンライツメッセージなると

【日時】12月8日(金) 午後2時～4時  
【場所】うずしお会館 2階 第一会議室

### 第一部

小・中・高・大学生による人権問題に関する作文発表

### 第二部

人権問題講演会  
演題：同和教育・人権教育の現状と課題  
講師：阿形 恒秀氏(鳴門教育大学教授)

